

畜産技術試験研究の最新の成果を発表

1月20日、畜産関係者を対象に開催された京都府畜産技術業績発表会において、当センターは、畜産経営の向上につながる最新の研究成果を発表しました。

今回は、ジャガイモの皮や規格外麺類などの食品製造副産物を牛の飼料資源として有効活用する方法や、耕作放棄地などで牛の放牧を実施する地域に、農家所有牛を貸し出すサポートカウバンクの取組など6題を発表したところ、参加者から多数の質問等があり、関心の高さがうかがわれるとともに、助言者からは『優れた取り組みであり、一層の追求を望む』との講評をいただきました。



研究員の発表風景

高病原性鳥インフルエンザの侵入を防ぐために

当センターでは、高病原性鳥インフルエンザなどの疾病の発生を未然に防ぐため、今月、職員が作製した「自動車輻消毒装置」を鶏舎施設入口に設置し、施設内に入るすべての車輻の消毒を実施しています。

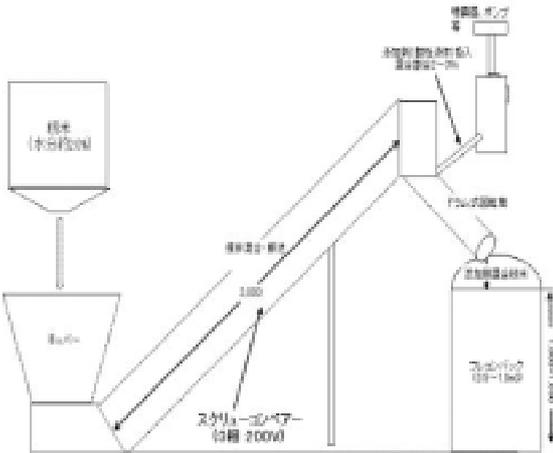
鶏舎では、車輻消毒に加えて、防鳥ネットなどによる野鳥や野生動物の侵入防止や鶏の飲水消毒などの「病原体を持ち込まない」対策を徹底しています。



車輻を感知し自動で噴霧消毒を行う「自動車輻消毒装置」

飼料米の利用拡大に向けて省力化装置を考案・試作

飼料用米は水田を有効活用して飼料自給率を向上させる有望な作物であり、一部の採卵養鶏で利用が始まっています。今後、採卵養鶏での利用を拡大するためには、粃米の調整・貯蔵や給与システム等の低コスト化と省力化が課題となっています。京都府では「新たな農林水産政策のための実用技術開発事業」の採択を受けて未乾燥粃米の長期貯蔵とその給与システムを検討することとし、新たな装置を考案して実証を始めています。



未乾燥粃米長期保存調整装置の考案図



飼料米と配合飼料の混合給与装置試作機

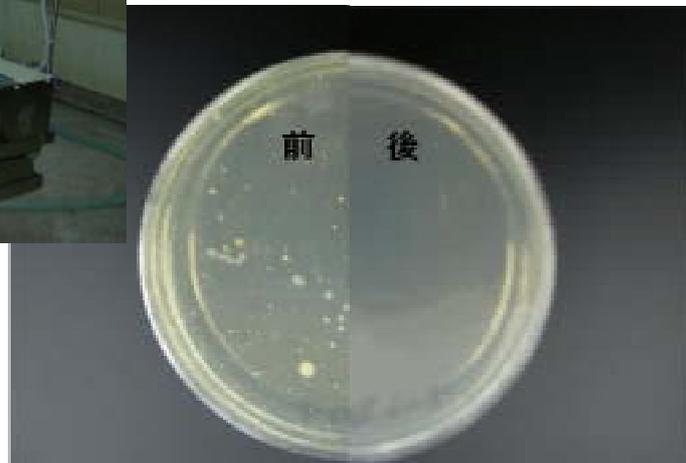
「新しい洗卵消毒装置」による鶏卵洗浄技術の確立に向けて

- 試作装置を用いて実証試験を継続実施中 -

当センターでは、石灰系化合物を殺菌剤として用い、排水を浄化する機能を備えた「新しい洗卵消毒装置」を京都市内の全自動鶏卵選別包装システムのトップメーカーと共同で開発しています。これまでの研究成果を基に昨年12月に試作した装置による実証試験では、洗卵消毒前後の卵殻表面の細菌数などの結果から十分な消毒効果を確認しました。今後は、排水の浄化機能を確認し、実用技術の確立を目指します。



洗卵消毒装置

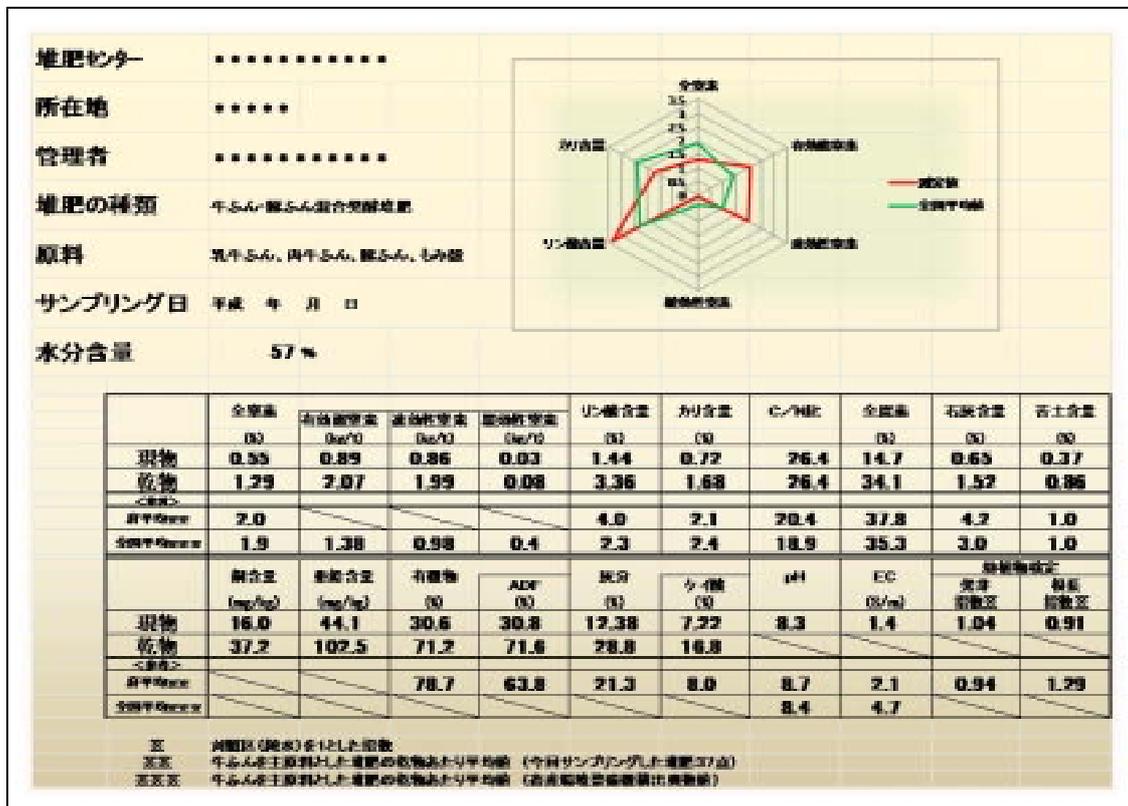


洗卵消毒前後の卵殻表面の細菌数

京都府内産堆肥を資源として有効利用するために

- 堆肥成分分析データの活用 -

京都府における環境にやさしい農業の推進のため、府内で生産される畜産堆肥の成分分析を行い、耕種農家が化学肥料の代替として堆肥の利用を促進する取り組みを進めています。今般、府内に44か所ある堆肥センターの堆肥成分のデータベース化が完了しました。今後は、データの有効活用に向けたネットワークの構築と体制づくりを提案し、取り組みをさらに進めることとしています。



堆肥センターごとのデータシート

畜産センター

酪農体験を通じた食育活動の充実を目指す

- 「酪農教育ファーム」の仮認証を取得 -

当センターは、府民に開かれた試験研究機関を目指しており、乳牛と畜産施設を活用した酪農体験を通じて、家畜や畜産業への理解促進に取り組んでいます。

この度、この取組が中央酪農会議から酪農体験を通じた食育活動として認められ、「酪農教育ファーム」の仮認証を取得しました。本年4月には本認証が取得できる予定で、今後は、食育活動の一層の充実を図っていくこととしています。



夏休み親子ふれあい畜産広場



職場体験学習

酪農教育ファームとは

牧場を教育の場として開放し、子供たちが搾乳やほ乳、エサやりなどの体験を通じて「食やいのちの大切さ」を学んでいくことを支援する牧場のことで、中央酪農会議が認証している。

現在、全国で290牧場、近畿で13牧場(うち京都府内は1牧場)が酪農教育ファームとして認証されている。

畜産センター

和牛の産肉能力育種価解析

当センターでは、和牛の改良度を推定するため、脂肪交雑等の枝肉データをもとに産肉能力育種価を解析しています。平成6年から開始した解析により、本年11月までに判明した繁殖雌牛34,808頭分の育種価は年々向上し、府内繁殖雌牛の改良が進んでいることが伺えます。

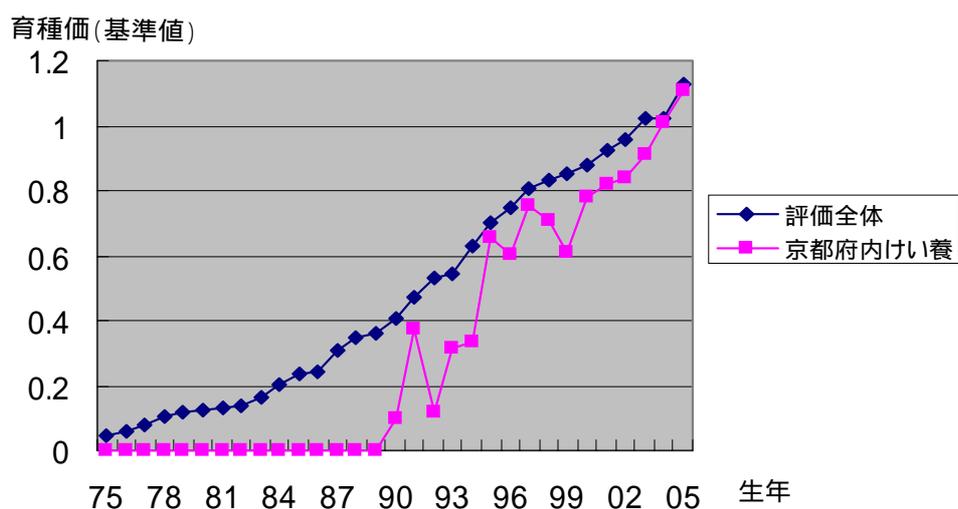
育種価は、農家にフィードバックし、繁殖農家では交配の際の種雄牛選定に活用され、肥育農家ではせり市で子牛を購入する際の参考にされています。



脂肪交雑などを測定する枝肉の切断面



期待育種価の高い子牛



雌牛育種価（脂肪交雑）の生年による推移

「子牛育成マニュアル」で育てた子牛が高評価

子牛せり市が1月14日、福知山市の中丹家畜市場で開催され、子牛111頭の平均価格は425,553円(前年同期比107%)となり、活気ある初せりとなりました。

当场から出荷した去勢6頭と雌4頭は、1頭当たり平均価格より4万円高く購買され、全農京都とともに普及を進めている「子牛育成マニュアル」をもとに良質粗飼料をたくさん与えて育てた子牛が高い評価を受けました。



真剣な眼差しで応札する購買者と子牛

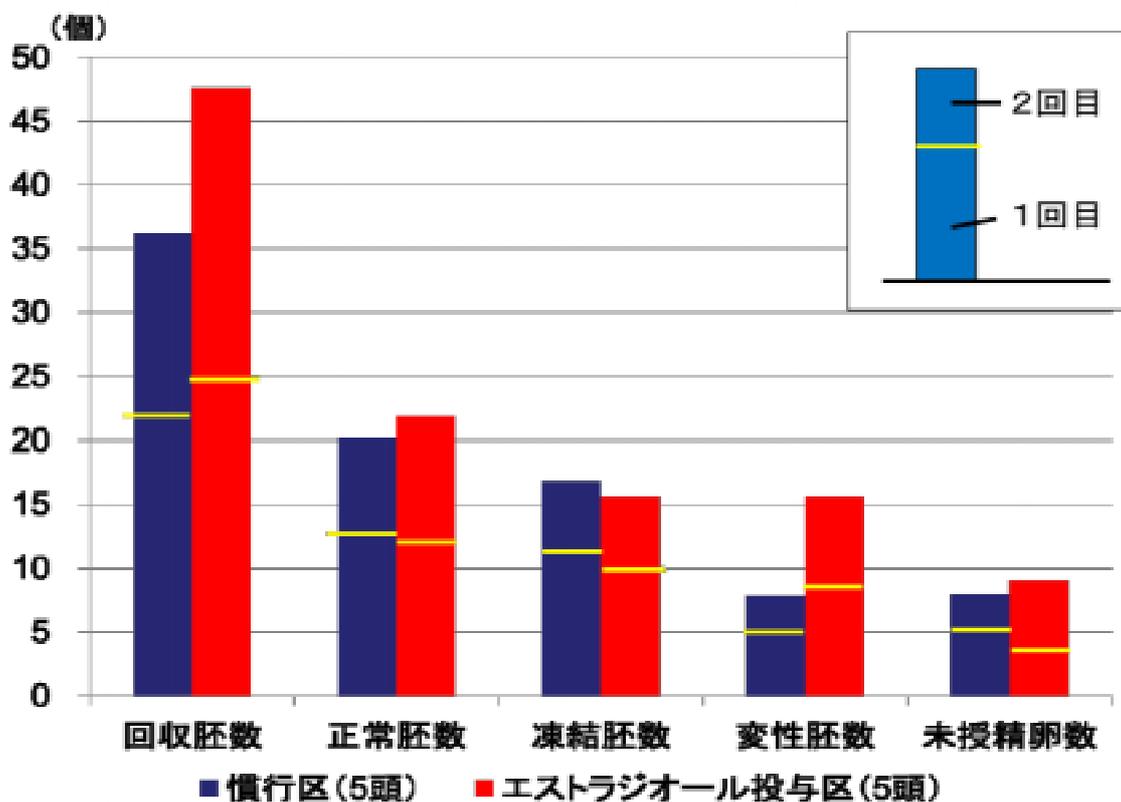
牛の過剰排卵処理にエストラジオール製剤を併用

- 効率的な牛の受精卵生産のために -

当センターでは、効率的な牛受精卵生産のため、28日間隔で2連続採胚を行っています。2回目の採胚での正常胚数は、1回目より減少する傾向があります。

そこで、過剰排卵処理に卵胞ホルモンの一種であるエストラジオール製剤を併用したところ、回収胚数及び正常胚数は併用しない牛と比べて増加しました。

今後は、変性胚、未受精卵を減らすより効率的な投与方法を検討します。



採胚成績の比較

乳用育成牛へ和牛受精卵の移植を開始

昨年4月に酪農家から導入した乳用子牛は、13か月齢で体重350kg、体高125cmの種付け基準を越え順調に発育し、今月から和牛受精卵の移植を開始しました。

和牛を受胎させると、産子の大きさが乳牛より小さいのでお産が軽く、また、乳牛よりも高く販売できることから、全ての農家が和牛受精卵移植を希望しています。今後は、19頭すべてを受胎させ、本年9月以降に酪農家へ譲渡します。



乳用育成牛に和牛受精卵を移植

30年ぶりの大豪雪

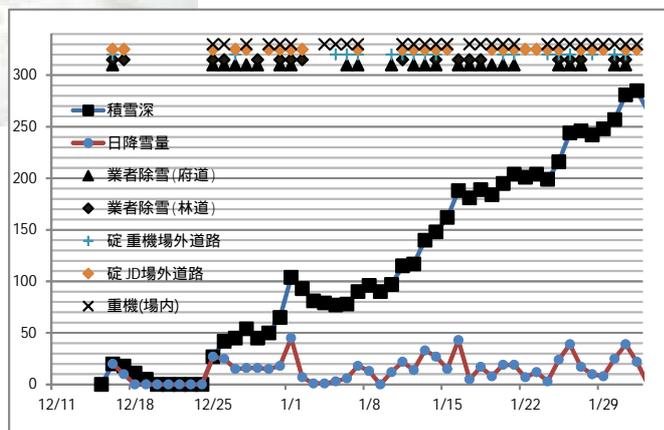
- 雪害回避に職員懸命の雪下ろし -

今年の積雪は1月31日に281cmを観測し、昭和56年2月に記録した290cmに次ぐ碓高原牧場史上第2位の大豪雪になっています。

職員は、その雪害防止対策として、木造の牛舎や水禽舎等の屋外施設の雪下ろしを順次行っていましたが、鉄骨牛舎等でも歪みがでて積雪の影響が現れ始めたので、急きょ総出で屋根に積もった2m以上の雪を下ろしました。



降ろした雪をパワーショベルで掻き出しています



今年度の積雪記録と重機などによる除雪状況